

次号
特集

透析診療のすべて

透析患者は、透析療法に起因する合併症のみならず、心血管疾患などさまざまな合併症を有することが知られています。また、患者の高齢化により、認知症やフレイルなど高齢者特有の問題もみられるようになってきました。必然的に、透析患者はさまざまな理由で入院する頻度が多く、多彩な背景・合併症から病態や経過がダイナミックに変化します。そのため、透析医だけで診療が完結することではなく、複数の診療科をまたいだ複雑なマネジメントを行う必要があります。また、透析患者の高齢化に伴い、透析の開始や見合わせなどに際しての倫理的ジレンマに、医療者が遭遇する機会が多くなってきている側面もあります。

本特集では、透析患者の生涯を通じて、各時期で起こり得る問題や考えるべき内容を、時系列に整理・紹介するような構成としました。各項目は、習熟した透析医の思考過程に沿って、エビデンスを示しつつ実践的な内容を目指しました。透析診療において、病棟診療医（ホスピタリスト、一般内科医、レジデントなど）をはじめとした、すべての職種が知っておくべき考え方のエッセンスを紹介し、これらを共通言語として、透析患者の診療に自信をもってかかわっていただけるような1冊を目指しました。

Part 1 透析の始め方(原理・原則)

1. 透析の始め方
2. 血液透析の原理、概要
3. 腹膜透析の原理、概要

【コラム】透析診療からみる腎移植、末期腎不全と公的保障

Part 2 透析管理の基本と原則

4. 血液透析・腹膜透析患者の管理目標
5. 血液透析患者におけるドライウェイト(DW)のマネジメント
6. 透析患者における腎性貧血のマネジメント
7. 透析患者におけるCKD-MBDのマネジメント

【コラム】透析患者と骨粗鬆症、透析患者の栄養管理

8. 透析に必要なバスキュラーアクセスの種類とその扱い
9. 透析患者への問診・診察
10. 透析条件表・記録の見方
11. 透析患者と肝炎
12. 透析患者と悪性腫瘍

【コラム】透析患者の便通管理、かゆみ、不眠・抑うつ、運動療法

Part 3 透析診療におけるトラブルシューティングと合併症管理

13. 透析における早期・晩期合併症
14. 血液透析患者に血圧低下・上昇がみられたら
15. 血液透析患者にアクセストラブルが起こったら
16. 血液透析患者が感染症を疑う症状で受診したら
17. 血液透析患者に出血病態が合併したとき
18. 腹膜透析患者が救急外来を受診したら
19. 透析患者と心脳血管疾患
20. 透析患者と多発性嚢胞腎

【コラム】周術期の血液透析療法、透析患者と薬剤、中毒に対する血液浄化

Part 4 透析の終わり方

21. 透析非導入あるいは透析の終わり方
- 【コラム】透析見合わせ時（非導入・中止後）のCKMの概要、透析の見合わせに関する法的な注意点
- 【付録】療養選択の際に用いる患者への説明用紙、透析患者の紹介状の書き方

※誌面の都合により、内容が変わることがあります。

- Vol.1 (2013年)
No.1 ホスピタリスト宣言
No.2 感染症
- Vol.2 (2014年)
No.1 腎疾患
No.2 膠原病
No.3 消化管疾患
No.4 緩和ケア
- Vol.3 (2015年)
No.1 呼吸器疾患1
No.2 外来における予防医療
No.3 循環器疾患1
No.4 血液疾患
- Vol.4 (2016年)
No.1 代謝内分泌
No.2 周術期マネジメント
No.3 腫瘍
No.4 他科の知識1
- Vol.5 (2017年)
No.1 神経内科
No.2 呼吸器疾患2
No.3 感染症2
No.4 老年科
- Vol.6 (2018年)
No.1 腎疾患2
No.2 糖尿病

- No.3 肝胆脾
No.4 心不全
- Vol.7 (2019年)
No.1 外来マネジメント
No.2 総合内科のための集中治療
No.3 抗血小板薬、抗凝固薬のすべて
No.4 内科エマーゼンシー
- Vol.8 (2020年)
No.1 アレルギー
No.2 画像診断①胸部・縦隔編
No.3 手技
No.4 病棟管理
- Vol.9 (2021年)
No.1 膠原病2
No.2 内分泌疾患2
No.3 不整脈1
No.4 不整脈2
- Vol.10 (2022年)
No.1 身体診察
No.2 脳梗塞
No.3 画像診断②脳脊髄編
No.4 感染症3
- Vol.11 (2023年)
No.1 コマネジメント
No.2 透析診療のすべて
No.3 栄養療法

「この特集、売れないかも」という山田悠史先生のコメントに対して、「先取りしたテーマを扱っていくのもこの雑誌のミッションです」などとお答えしつつ、正直なところ、どんな全体像がみえてくるのか不安でした。とはいえ、「周術期マネジメント」特集や、『総合内科病棟マニュアル』赤本なども下地に、皆さまのおかげで、各マネジメントのアップデートの側面、それから施設ごとのシステムや文化にかかわる側面などがうまくミックスされた、ユニークな内容にまとまったかと思います。かつて石山貴章先生は『僕は病院のコンダクター』（MEDSi, 2014）で、本物のホスピタリストの条件として「当たり前のことを、きっちりと丁寧に」を挙げておられたことを思い出しました。本特集からも受け取れるメッセージです。期せずして、特別寄稿や広告対談のテーマともつながりました。サブタイトルは「新しい働き方」。Clinician Updateも新しいレイアウトにリニューアルしました。

- 広告 医学書院…112, 154 南江堂…164
一覧 金原出版…22 南山堂…48
東京都立病院機構…表2 日本医事新報社…80

発行者 金子 浩平

発行所 株式会社 メディカル・サイエンス・インターナショナル
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
電話：編集部 03-5804-6056 FAX：編集部 03-5804-6054
販売部 03-5804-6051 販売部 03-5804-6055
URL：http://www.medsico.jp Eメール：hospitalist@medsi.co.jp
振替：東京 7-28572

印刷所 横山印刷株式会社 電話03-3622-6161

広告取扱 メディカルブレーション 電話03-3814-5980

文京メディカル 電話03-3817-8036

本誌の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は（株）メディカル・サイエンス・インターナショナルが保有します。本書を無断で複製する行為（複写、スキャン、デジタルデータ化など）は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的（診療、研究活動を含む）で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

【JCOPY】＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞本書の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。